

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1999. 12

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 188

日本野鳥の会 埼玉県支部

地鳴きコーナー特集

珍しい瞬間を見ました

岸 春野（所沢市）

今年6月12日（土）とその翌日、北軽井沢にほど近い嬬恋村で、ツツドリと2回の出会いを体験しました。

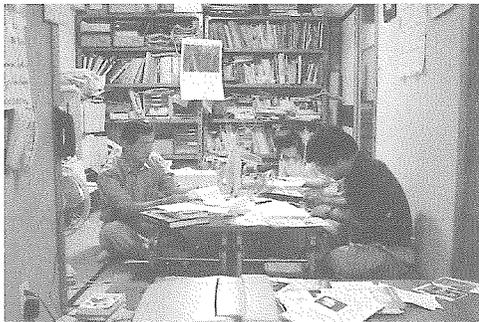
正直なところ、ツツドリかどうか定かではありませんが、雑木林はカッコウや、ホトトギスのテッペンカケタカの声等で満ちていましたのに、全然反応しないものですから、ツツドリと思いました。

まず最初は12日昼過ぎの事、すぐ前のコナラの木の枝に大きな鳥を見つけたので、急いで双眼鏡で見ると、上面は青灰色で、腹は白に黒の荒い縞模様のツツドリでした。

間近で見るのは初めてなので、夢中で見ていると、いきなり赤いレンガ色の鳥が、上に重なりました。一瞬間何が起こったのか分からなかったのに、赤色型のツツドリだと気付くのに、間がありました。あっと言う間の出来事で、2羽とも飛び去りました。

2回目は翌日の10時ごろの事です。最初の時の場所の北西側によく繁った木が3～4本あり、1番手前の木で、スズメより小さな淡い黄緑色のスマートな小鳥が、せわしなく動きまわっていました。鳴かないので分かりませんが、白色の眉斑もあり、ムシクイだと思いました。

双眼鏡でまわりを見ると、順光でよく見える左手前の枝に、ツツドリが落ち着かない様子でとまっています。



『しらこぼと』ただいま編集中

そして、ムシクイが上の方の枝に移った瞬間、ツツドリがパッと葉の繁みに入り、すぐにもとの枝に戻りました。ほんの3～4秒の感じがしました。その時、ツツドリのくちばしからドローンとした卵の白身のようなものが下がっているのが見えました。托卵のようです。

自分の目を疑いました。テレビで見た情景と同じ体験ができた事に興奮し、家族にすぐ話しましたが、特に関心のない家族は、そう良かったねと言うだけ……。

その後フィールドガイドを見ましたら、ツツドリの赤色型は雌とのこと。私の見たのは、交尾ではなかったのでしょうか……？

「北方四島の自然を考える」シンポジウム

楠見邦博（浦和市）

9月28日（火）青山の国連大学で、北方四島の自然保護を考える会、北方四島自然保護問題協議会と日本野鳥の会主催の集いが開かれました。

元環境庁長官の岩垂副会長の挨拶に続き、「千島列島弧の成立と地史」「千島列島の植物相」「鰭脚類の現況と海洋生物圏保全」「北方四島と北海道の渡り鳥保護」「北方四島自然保護の現状と問題点」について各講師から講演があり、「北方四島の自然保護をどう進めるか」をテーマに、パネルディスカッションが熱心に続けられました。

北方領土というと、日露の間で返還交渉が行われている事がすぐに思い起こされます。共同経済開発も考えられていますが、深く考えている人は少ないのではないのでしょうか。

自然保護については、今国内で行われている事と同じで、いつのまにか既成事実が進行し、私たちが気がついた時は、すっかりお膳立ができてるのが現状だということを感じました。だから、領土返還運動の表面にとらわれる事なく、「鳥を通じての北方領土」を考える必要があるでしょう。

私たちが冬鳥を見られるのも、渡りの中継

地としての北方四島の存在が大きな意味を持っています。そして、北方四島には、かつての北海道やそれ以前の日本にあった自然が残っている事、地元ロシアの人々が自然保護に力を入れてきたが、経済危機によって運動が停滞している事を知りました。世界的に見ても貴重な自然が残っている事を考え、何らかの方法で、私たちの力を注ぎたいものです。

私は日本野鳥の会本部の理事会等に参加する機会を得ていますが、本部と支部の性格の違いを越えて生命の連鎖を考える時、私たちは、一歩一歩自然保護活動を進める日本最大のNGOである日本野鳥の会の会員である事に誇りを持ち、一方では、探鳥会等を通じて地道に進める埼玉県支部の自然保護活動を、やはり大切なものと考えました。

このシンポジウムに参加して、今後の自分自身の行動を考える機会になりました。



シロハラ (蟹瀬武男)

戸隠飯綱高原探鳥会に参加して

増尾 隆 (坂戸市)

数年ぶりの参加とあって、心もうきうき新幹線で長野駅へ。二日間行動を共にする仲間と集合後、宿差し回しのマイクロバスで飯綱高原に向かう。

一の鳥居から歩きだす。ヒガラ・コガラ・シジュウカラが出現、カラ類の混群だ。木から木へとエナガの群が移る。コゲラのドラミングが響く。「イイコイル」の声に樹上を見上げるとイカルの群だ。ゴジュウカラも多く見られた。白樺林の中で昼食をとる。

大谷湿原から台座法師池へ。池はガスが立

ちこめ、そのガスの切れ間に池畔の紅葉が幻想的な風景を見せる。ハジロカイツブリの姿はなかったが、ヒドリガモが見られた。アトリの群を見て、バスで鏡池に移動。遙かに鹿島槍ヶ岳、五竜岳、唐松岳等の北アルプス連峰を眺めるも、すぐにガスがかかってしまい早々に宿に引き揚げる。

夜の懇親会では戸隠名物のそばと地酒をいただきながらの自己紹介で、大いに盛り上がった。その後は恒例のHリーダーのビデオ観賞。

翌朝は宿周辺を回り、運の良い人はアオゲラやキジを見たようだ。朝食後森林植物園へ。

まずは、みどりが池の前で戸隠連山をバックに記念撮影。森の中ではミソサザイやカラ類が出て、上空にハイタカ2羽が飛翔。直後にノスリが低空で舞ってくれた。随神門からいよいよ「ささやきの小道」だ。あの初恋の人(鳥)にもう一度逢いたい。

誰かが叫んだ「ムギマキデー」。皆がかけよる。橙色の胸に目の後方の白斑が印象的だ。♂がいる、♀がいる、若鳥も。ツルマサキの実を食べている。しばらく進むと今度は「マミチャジナイだよ」。やっぱり逢えたのだ初恋の鳥に!! 他の人も興奮気味だ。満足感が心をみす。

最終地の上空でトビが輪を描く。鳥合せ後、宿心づくしのキノコ汁を味わいながら昼食。なんとその後、リーダーの執念がカワガラスを出してくれて、1種追加となった。

リーダーの方々、宿の温かい心遣いに感謝感激の探鳥会だった。



戸隠の探鳥会風景

1998年夏 「鳥の目から環境を調べよう！」 調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査は59件の回答を頂き、調査にご協力頂いた会員各位の自宅から半径50m以内で65種が確認されました(表1、表2)。

7通りの環境別に上位5種をリストアップ(表3)しました。高層住宅地区と1～2階建て住宅地区以外は調査サンプル数が少ないため上位5種が決められません。

1999/2000年冬も観察期間を12月1日から1月31日とし、自宅から半径50m以内で観察された鳥を、1月号に同封する調査はがきでご回答いただく調査を継続します。

環境と鳥との関係を見る調査ですので、ドバト、ワカケホンセイインコ、セキセイインコなどかご抜けの鳥もご記入下さい。商業地区、工業地区、農業地区、林業地区の方々の積極的なご参加をお願い申し上げます。

(小荷田行男)

表1 調査概要

| | | | | |
|------------|------------------|----|----|------|
| 調査期間 | 1998年5月10日～7月10日 | | | |
| 調査参加者 | 支部会員59名 | | | |
| 調査区域 | 会員各位の自宅から半径50m以内 | | | |
| | 餌台 | 水場 | 巣箱 | 回答件数 |
| 高層住宅地区 | 0 | 0 | 0 | 9 |
| 1～2階建て住宅地区 | 15 | 9 | 4 | 43 |
| 商業地区 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 工業地区 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 農業地区(主に畑) | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 農業地区(主に水田) | 1 | 1 | 1 | 2 |
| 林業地区 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 計 | 18 | 12 | 6 | 59 |

表3 埼玉県における環境別上位5種(夏鳥)

| 環境 | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|------------|--------------|---------------|------|------|-----|
| 高層住宅地区 | オナガ、スズメ、ヒヨドリ | キジバト、ムクドリ、ツバメ | | | |
| 1～2階建て住宅地区 | スズメ | キジバト | ヒヨドリ | ムクドリ | ツバメ |
| 商業地区 | 該当なし | | | | |
| 工業地区 | | | | | |
| 農業地区(主に畑) | | | | | |
| 農業地区(主に水田) | | | | | |
| 林業地区 | | | | | |

表4 全環境の上位5種

| | 種類 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 |
|------|----|-----|------|-----------|------|-----|
| 1996 | 73 | スズメ | ツバメ | ヒヨドリ | ムクドリ | オナガ |
| 1997 | 51 | スズメ | キジバト | ヒヨドリ、ムクドリ | ツバメ | |
| 1998 | 64 | スズメ | ヒヨドリ | キジバト | ムクドリ | オナガ |

表2 調査結果一覧

| 種 | 高層住宅地区 | 1～2階建て住宅地区 | 商業地区 | 工業地区 | (主に畑)農業地区 | (主に水田)農業地区 | 林業地区 | 件数 |
|------------|--------|------------|------|------|-----------|------------|------|-----|
| スズメ | 9 | 40 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 56 |
| ヒヨドリ | 9 | 37 | 1 | 1 | 2 | 2 | 1 | 53 |
| キジバト | 8 | 38 | 1 | 1 | 2 | 2 | | 52 |
| ムクドリ | 8 | 36 | 1 | | 2 | 1 | | 48 |
| オナガ | 9 | 32 | 1 | | 2 | 2 | 1 | 47 |
| ツバメ | 8 | 33 | 1 | | 2 | 2 | | 46 |
| シジュウカラ | 6 | 32 | 1 | | 2 | 1 | 1 | 43 |
| ハシブトガラス | 5 | 28 | 1 | 1 | 1 | 1 | | 37 |
| ハシボソガラス | 6 | 24 | 1 | | 1 | 1 | | 33 |
| カワラヒワ | 6 | 22 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 32 |
| ハクセキレイ | 3 | 20 | 1 | 1 | 1 | 2 | | 28 |
| カッコウ | 5 | 14 | 1 | | 1 | | | 21 |
| コゲラ | 3 | 12 | | | | 1 | 1 | 17 |
| カルガモ | 1 | 11 | 1 | | | 1 | | 14 |
| メジロ | 2 | 11 | | | | | 1 | 14 |
| カワウ | 1 | 10 | 1 | | | | | 12 |
| ドバト | 4 | 7 | | | | | | 11 |
| コサギ | 2 | 6 | 1 | | | 1 | | 10 |
| セグロセキレイ | 2 | 6 | | | | 1 | 1 | 10 |
| ゴイサギ | 2 | 6 | | | | 1 | | 9 |
| コジュケイ | 1 | 4 | | | 1 | | | 6 |
| ホトトギス | 1 | 4 | | | | | 1 | 5 |
| ヒバリ | 3 | 3 | | | 1 | 1 | | 5 |
| ウグイス | 4 | 4 | | | | | 1 | 5 |
| シラコバト | 1 | 2 | | | | 1 | | 4 |
| アオゲラ | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | 4 |
| イワツバメ | 1 | 2 | | | | | | 3 |
| モズ | 2 | 2 | | | | 1 | | 3 |
| ホオジロ | 2 | 2 | | | | | 1 | 3 |
| ダイサギ | 1 | 1 | | | | 1 | | 2 |
| キジ | 2 | 2 | | | | | | 2 |
| イソシギ | 1 | 1 | | | | 1 | | 2 |
| ツグミ | 2 | 2 | | | | | | 2 |
| オオヨシキリ | 1 | 1 | | | | 1 | | 2 |
| ヤマガラ | 1 | 1 | | | | | 1 | 2 |
| アオジ | 2 | 2 | | | | | | 2 |
| チュウサギ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| アオサギ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| ハチクマ | | | | | | | 1 | 1 |
| トビ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| オオタカ | | | | | | | 1 | 1 |
| ハイタカ | | | | | | | 1 | 1 |
| ノスリ | | | | | | | 1 | 1 |
| サシバ | | | | | | | 1 | 1 |
| チョウゲンボウ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| コチドリ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| コアジサシ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| ヨタカ | | | | | | | 1 | 1 |
| アマツバメ | | | | | | 1 | | 1 |
| アカゲラ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| キセキレイ | | | | | | | 1 | 1 |
| サンショウクイ | | | | | | | 1 | 1 |
| トラツグミ | | | | | | | 1 | 1 |
| クロツグミ | | | | | | | 1 | 1 |
| アカハラ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| ヤブサメ | | | | | | | 1 | 1 |
| センダイムシクイ | | | | | | | 1 | 1 |
| セッカ | | | | | | | 1 | 1 |
| キビタキ | | | | | | | 1 | 1 |
| サンコウチョウ | | | | | | | 1 | 1 |
| エナガ | | | | | | | 1 | 1 |
| イカル | | | | | | | 1 | 1 |
| カケス | | | | | | | 1 | 1 |
| ワカケホンセイインコ | 1 | 1 | | | | | | 1 |
| 64種 | 103 | 468 | 15 | 6 | 21 | 30 | 30 | 673 |

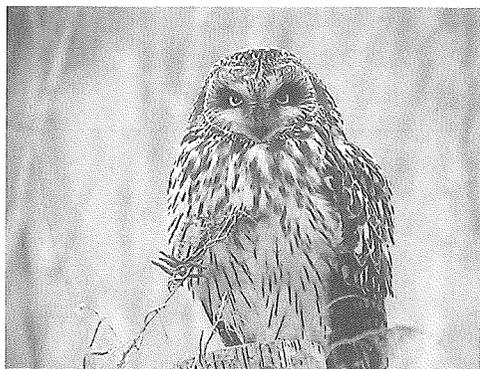


川口市差間 ◇9月17日、馬宮でアカゲラ1羽（鈴木紀雄）。

戸田市道満彩湖 ◇9月29日、ハヤブサ1羽、ノビタキ2羽。10月6日、マガモ、カルガモ、コガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オカヨシガモ1羽、ハシビロガモ1羽。10月11日、ハジロカイツブリ1羽、カンムリカイツブリ1羽。10月13日、ハヤブサ1羽。ショウドウツバメ約40羽、その中に三日月形のアマツバメ1羽。10月26日、オオタカ若鳥1羽、ハヤブサ1羽、チョウゲンボウ2羽。チョウゲンボウ、ハヤブサは、頻繁に来ているようです。10月30日、ジョウビタキ♀2羽（倉林宗太郎）。◇10月1日、チュウサギ1羽。10月4日、ハジロカイツブリ1羽。10月9日、メボソムシクイ1羽。10月10日、カンムリカイツブリ1羽、キビタキ1羽。10月17日、ミサゴ1羽。10月24日、タゲリ4羽。10月30日、ツグミ1羽初認、アトリ24羽（高橋達也）。◇10月25日、オオジュリン3羽、ハシビロガモ♂♀各1羽、ユリカモメ1羽、イソシギ1羽（陶山和良）。

戸田市戸田公園 ◇10月4日、コサメビタキ1羽、10月10日、キビタキ1羽、カケス1羽。10月11日、オオルリ♂若鳥1羽（高橋達也）。

戸田市後谷公園 ◇10月11日、ムクドリ。午後5時～5時20分にかけて約5500羽がねぐら入りした（高橋達也）。



コミミズク（菱沼一充）

戸田市美女木 ◇10月13日、蕨、戸田衛生センターの上空約80mのところまでサシバ1羽、上昇気流をさがして旋回していた。10月26日午前7時20分、JR埼京線近くの堀の上でジョウビタキ♂1羽（倉林宗太郎）。

岩槻市岩槻文化公園 ◇10月1日、シジュウカラ、コゲラの混群の近くでコサメビタキ1羽、混群にいたのか、偶然近くにいたのか不明。羽づくろいしたり、尾羽を広げてノビをしたり。10月13日、エゾビタキ2羽。10月14日、テニスコート前の木立ちでエゾビタキ3羽以上、コサメビタキ1羽。コサメビタキはエゾビタキより低い樹間を飛び回っていた。10月21日、ジョウビタキ♂1羽初認。10月26日、ジョウビタキ♀1羽。シメ1羽初認、ウグイス、アオジ（鈴木紀雄）。

岩槻市岩槻公園 ◇10月6日、カケス7羽、エゾビタキ3羽、メボソムシクイ1羽。10月14日、ヤマガラ1羽、エゾビタキ5羽、他にヒヨドリやカケスの群れ。渡り鳥の移動の真っ最中。エゾビタキの多いのに驚いた（中村榮男）。

蓮田市黒浜沼 ◇10月6日、タシギ、カケス。小型の猛禽が一直線に飛んで、樹上のキジバトを襲ったが、逃げられた。一瞬のことでツミ♀かと思ったが不明。キジバトと同じ位の大きさだった。10月8日、南側の田んぼでノビタキ4羽。2羽はまだ頭がかなり黒かった。沼上空でショウドウツバメ約20羽。アマツバメ2羽が上空高く通過（鈴木紀雄）。◇10月10日午前11時頃、上沼でハシビロガモ、カルガモ、ダイサギ、コサギ。沼に流れ込む水路の柵でヒメクイナ1羽、脚は青色（青の強い青銅色）、嘴は黒色系で小型、背は茶褐色（道祖土修一）。◇10月11日、下沼近くの用水路脇の草の上でコサメビタキ2羽、2m位に近づいても逃げないのでじっくり観察できた。約10分後、ほぼ同じ場所でノビタキ2羽（♂、♀）が飛んで来た。♂はまだ夏羽が残っていて頭がまだら模様だった。近くの民家の木の上にもノビタキ1羽とまっていた（長野誠治・岳）。◇10月18日、上沼でアシ原

の中にヨシゴイ1羽(鈴木紀雄)。◇11月3日午前9時頃、沼近くのアシ原の中に立つ木にオオタカの若鳥1羽がとまり、そのかたわらにモズが1羽とまっていた。猛禽の隣で逃げもしないモズに驚きを感じた(田中幸男)。

浦和市秋ヶ瀬 ◇10月12日、ピクニックの森でコゲラ、シジュウカラ、メジロの混群中にムシクイ sp. 1羽(鈴木紀雄)。◇10月28日、こどもの森でヤマシギ1羽。前日の雨で水びたしの中を歩いていたら、数m先から鳩より少し大きめの鳥が飛び出し、右にカーブして木立ちの中に消えました。一瞬でしたが、茶色で、嘴が長く、丸っこい羽先でした。今度はじっくり姿を見せて欲しい(鈴木紀雄)。

浦和市辻3丁目 ◇10月30日、水辺公園でジョウビタキ♂1羽、早朝から鳴いていた(倉林宗太郎)。

東松山市物見山公園 ◇9月26日、山頂の展望台でサンショウクイ♀2羽、「ヒリリ・」と鳴きながら現れた。飛び去って行くのを見たら5羽いました(鈴木紀雄)。

飯能市多摩主山 ◇9月26日、山頂でエゾビタキ1羽、上空でアマツバメ(鈴木紀雄)。

渡良瀬遊水地 ◇10月4日午後5時~5時30分、鷹見台で約1000羽のショウドウツバメが次々に「ジュリ、ジュリッ」と鳴きながら北から南へ飛んで行った。ねぐら入りか。その上空にアマツバメ(鈴木紀雄)。

川本町荒川 ◇10月9日、明戸堰上流の岸の水たまりにアカエリヒレアシシギ1羽、さかんに泳いでいた。キアシシギ1羽、イカルチドリ3羽、ショウドウツバメ約50羽、ノスリ1羽、トビ1羽、チョウゲンボウ2羽(後藤康夫、和田康男)。◇10月24日、



トラフズク(菱沼一充)

コハクチョウ7羽、シメ3羽、カケス2羽、ジョウビタキ♂1羽、ショウドウツバメ15羽(後藤康夫)。

熊谷市大麻生 ◇10月10日、ゴルフ場と土手間の雑木林でジョウビタキ若鳥♂1羽初認(榎本秀和)。

熊谷市揚井 ◇10月16日、24日、オオタカ1羽。スズメ、ヒヨドリ、ドバトを捕食した(寺山聖二)。

本庄市坂東大橋下流 ◇10月11日、ノビタキ4羽、冬羽に変わる途中でまだ頭が黒い。カケス3羽、1羽はモズに追われていた。アカゲラ1羽、頭上を通過、河川敷の木にとまった。チョウゲンボウ1羽、トビ5羽、ショウドウツバメ約100羽(後藤康夫)。

嵐山町 ◇10月24日、菅谷館~都幾川でゴジュウカラ2羽、コゲラ2羽、エナガ約10羽、シジュウカラ4~5羽の混群。カワセミ3羽(後藤康夫・喜久子)。

行田市下忍 ◇10月30日午後2時~2時30分、田んぼの中の用水路でタマシギ♂1羽、じっと動かず日向ぼっこをしているようでした。30m位の至近距離からスコープを使って観察でき感激でした(金子昭三、善積理子、黒野ふき子、土橋享子)。

表紙の写真

ルリビタキ(スズメ目ヒタキ科ツグミ亜科コマドリ属)

撮影:菱沼一充(板橋区)

世界的には、カムチャッカ半島からシベリア南部、ヒマラヤ、アフガニスタンで繁殖、タイ、インドネシアなどで越冬する。

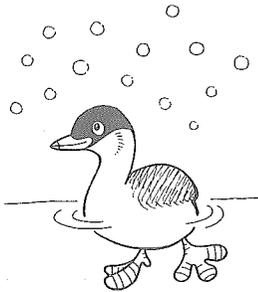
日本では、本州中部以北の亜高山帯、高山帯、北海道で繁殖し、冬は低地で見られ

る。

埼玉では、よく茂った薄暗い林の中で越冬する。ハエが発生しやすいゴミ捨て場やトイレの近くがひとつの狙い目と言うと、ルリビタキがかわいそうかな。

(解説:編集部)

行事あんない



(何森 要)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：12月4日(土)

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、中島(康)、中村(榮)、田中、長嶋、松永

見どころ：秋も終り、冬鳥たちが里に現われる季節となりました。葉を落とした木々や枯れて茶色になった草の間に、春とは異なり地味な装いの鳥たちが潜んでいます。味わいのあるこの鳥たちをじっくりと見てみましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：12月5日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前より北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて、「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、榎本、大坂、内藤、島田、高(文)、立岩、永野(安)、永野(京)、高(剋)、山田、今井

見どころ：冬空にそびえる秩父の山並みと富士山の眺望を楽しみましょう。枯れ葉となった雑木林の縁を歩きながら、赤い鳥や青い鳥との出会いに胸をときめかせ、地上でエサをついばむシロハラに目を輝かす観察会。そして高尾の池では、ここでは珍しい潜水ガモを探してみてください。

浦和市・民家園周辺定例探鳥会

<見沼ヘルシーロードコース>

期日：12月5日(日)

集合：午前9時、浦和市くらしの博物館民家園。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場より、大崎園芸植物園行き8:36発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和市くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、笠原、倉林、吉岡(洋)、若林、松堂、前澤

見どころ：'99年も最後の月となり、大きく深呼吸すると、冷たく爽やかな空気が胸に拡がります。冬鳥のツグミやジョウビタキなどとの暖かい出会いを求めて、ちょっと寒い見沼を歩きましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：12月12日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、又は寄居9:03発に乗車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：風が身にしみる時期ですが、ウォッチングには最高の季節です。澄みきった空にはオオタカ・ノスリ、林の中にはアオゲラ・アカゲラ・カラ類、川にはカモ類、遠くにハクチョウも見えます。冷気の中、1年を締めましょう。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前8時30分、東武野田線岩槻駅前。
または午前9時15分、文化公園駐車場
（国道16号側）。

交通：東武野田線大宮8：11発、または春日
部8：08発大宮行きにて岩槻下車。集
合後バスで現地へ。

担当：中村（榮）、中島（康）、吉安、橋口、
玉井、入山、松永、田中、長嶋

見どころ：公園とその周辺を歩きます。林や
アシ原ではアオジ、水辺ではカワセミ
やカモ類、カモメの仲間が見られます。
今年もアカハラやアリスイが見られれ
ば最高です。みんなで探しましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：12月12日（日）

集合：午前9時40分、森林公園入り口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園
南口行き9:17発バスに乗車、終点下車。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、青山、島
田、喜多、後藤

見どころ：人影も少ない冬の公園は、葉を落
とした木立の中で飛び交う小鳥たちや
空高く舞うウシタカ類、換羽が終わっ
たカモ類などで魅力がいっぱい。その
うえに日だまりや木漏れ日の小道を歩
くと、身も心も和みますよ。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：12月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺
（周）、笠原、若林、兼元、森、清水、前澤

見どころ：今年も見沼たんぼの上を、いろん
な人の思いを込めて風が渡っていった。
それぞれの季節に鳥は現われ、歌って
いった。見沼を歩き、楽しい仲間と一

日を過ごさないと一年が終わった気が
しない。ぜひお出かけください。

年末講演会

期日：12月23日（木・祝）午後1時30分～4
時30分（受付開始午後1時）

会場：埼玉県県民活動総合センター（伊奈
町）☎048-728-7111

交通：ニューシャトル大宮12:00、または12:3
0発にて、羽貫下車。無料送迎バスに接
続。またはJR高崎線上尾駅東口より
羽貫駅行きバス12:04発にて、終点下車。
送迎バスに接続。無料駐車場あり。

第1部 ビデオによる「今年の出来事」
午後1時30分～2時

第2部 河内啓二講演会

午後2時15分～4時30分

東京大学先端科学技術センター教授
の河内先生により、「生物の飛行」に
ついてお話いただきます。

第3部 懇親会（希望者のみ、会費4,000円）

講演会終了後、センター1階のレス
トラン「じゃぼにか」に場所を移して
の軽い立食パーティーです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：12月25日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：平成12年1月3日（月・祝）

集合：午前9時30分、さぎ山記念公園駐車場。

交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田
引返し場行きで約20分、「上野田」下
車。当日は正月ダイヤで1時間に3～
4本運行される予定です。

担当：海老原、松井、楠見、櫻庭、工藤、藤
原（寛）

見どころ：探鳥会終了後は、恒例の野外新年
会。この日ばかりはアルコール類持ち
寄りOK。自慢の料理も大歓迎。昨年
も林の横の日だまりで、大いに盛り上
がりました。2000年問題で万一混乱が
ある時は、中止します。

要予約のバスツアー

2件とも、往復貸切バス利用。十分な防寒と足揃え、雨具の用意を忘れずに。伊豆沼は、長距離歩きます。宿泊は男女別の相部屋で、個室のご用意はできません。先着順受付。満員の場合は、埼玉県支部の会員が優先です。

宮城県・伊豆沼探鳥会

期日：1月29日(土)～30日(日)
集合：29日午前7時、大宮駅西口代々木ゼミナール前。
帰着：同所、30日午後8時頃の予定。
費用：19,000円の予定(バス代、宿泊料、保険料など。万一過不足の場合は、当日清算します)。
定員：20名
申し込み：普通葉書に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号を明記して、中島康夫 まで。

担当：中島(康)、櫻庭、北川
見どころ：日の出と共に一斉に飛び立つマガンの群れ。獲物をねらうオジロワシ、ハヤブサ、ノスリなど。

西川越探鳥会の翌の猛禽 海老原美夫(浦和市)

10月24日(日)に開催された西川越の探鳥会で、識別のできないタカ類が観察されたと報告を受けました。

たまたま参加していた家人の話では、

1. カラスよりずっと大きい。
2. 翼の先端近くの丸い白斑がすごく目立って、
3. どこかで見た事があるような気がするのよ。

ということでした。

当日参加していた近所に住む方(すみません、お名前を聞き忘れました)が、翌日も見かけたとお電話をくださいました。

それによると、

4. 電柱にとまって餌を食べていた。目の上に赤い部分がある。
- とのこと。

むむっ、顔に赤い部分があって、翼の大きな白斑が目立つとなると、アレかも知れないと、その段階で、日本にはいないある鳥が頭に浮かびました。

そして、松村禎夫会員(大宮市)が撮影した写真が送られてきて、決まりました。これは、カラカラです。

冗談を言っているわけではなくて、カラカラというのは、鳥の名前です。

タカ目ハヤブサ科カラカラ属に分類され、英名で Crested Caracara、または Common Caracara、学名は *Polyborus plancus*。

千葉県・鏡子港探鳥会

期日：1月29日(土)～30日(日)
集合：29日午前7時50分、大宮駅西口。
費用：16,000円の予定(バス代、宿泊料、保険料など)。詳細は後日申込み者に通知します。
定員：20名。(最少催行人員15名)。
申し込み：普通葉書に、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・喫煙の有無を明記して、榎本秀和 まで。

担当：榎本、島田、大坂、逸見、田口
見どころ：日本一のカモメの名所へ、久しぶりのバスツアー。カモメ以外の海鳥たちもたっぶり。船橋海浜公園にも立ち寄る予定です。



カラカラ 1999年10月24日(日)川越市西川越入間川付近で撮影 松村禎夫(大宮市)

北米大陸の南端、合衆国のフロリダ州と南西部から、中央アメリカ、南アメリカにかけて生息し、小型のは乳類や若鳥などを捕殺す事もあるが、昆虫・腐肉・残飯・トカゲ・ヘビなど、幅広く食べるようです。私たちは、昨年ベネズエラで見えています。

その後、パソコン通信を通じて得られた情報—「1998年3月に都内多摩川の関戸橋から是政橋の間で数回目撃。その時は腰に鈴がつけられて、足のあたりから紐がたれていた。今回の西川越探鳥会の翌週、10月30日(土)にも同じ多摩川で観察され、今度は紐などは見えなかった」。

別の情報—「2年ほど前の冬、神奈川県内でも目撃されて、その時は紐などは見えなかった。近縁種のチマンゴカラカラらしい別の個体も目撃されている」。

どうやら、個人的に飼われていたカラカラが逃げ出して、1羽だけではなく何羽か、日本の空を飛んでいるようです。

行事報告

9月26日(日) 狭山市 入間川

参加: 36人 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ トビ サシバ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト アマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 1月以来姿を見せなかったカワセミが戻ってきた。「見どころ」にした渡り途中の鳥たちでは、アマツバメとサシバが現われてくれた。鳥のほか草花やキノコなど季節を感じる自然と出会い、秋らしい一日を過ごせたと思う。(長谷部謙二)

10月3日(日) 浦和市 民家園周辺

参加: 39人 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ サシバ バンクサシギ イソシギ ウミネコ キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 挨拶の直前に南へ渡る4羽のサシバを見送る。スタート直後から風が強くなり、野辺では鳥が少ない。調節池に冬鳥のカモ類が早くも飛来していたので、ゆっくり観察。みはまだエクリプスで図鑑を見ながら何とか6種を確認した。サギ類も5種を確認。識別のむずかしさを痛感した1日。(手塚正義)

10月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ コジュケイ キジバト カワセミ

アカゲラ コゲラ ヒバリ ショウドウトツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ノビタキ エゾビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 10月とはいえ、汗ばむほどの上天気となる。和田幹事が所用のため、今回のチーフリーダーは菱沼幹事。大麻生駅から明戸堰に至る土手沿いのコースを歩く。この時期はノビタキに出会うことも楽しみのひとつであるが、幸いにも複数の固体が何度も姿を見せてくれた。その上、早くもジョウビタキ♂まで現われて、深まりつつある秋をあらためて実感した。(榎本秀和)

10月10日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

参加: 53人 天気: 晴

ゴイサギ チュウサギ コサギ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ タシギ キジバト ヒバリ ショウドウトツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) ノビタキやショウドウトツバメが見られたが、カモが1種類しか見られなかったのは残念だった。コゲラやシジュウカラはどこへ行ってしまったのだ。モズが高鳴きして笑っていた。(福井恒人)

10月17日(日) 浦和市 三室地区

参加: 56人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ヨシゴイ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ バンクサシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ キビタキ コサメビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) ひさしぶりに探鳥会の楽しさを味わった。三室の探鳥会は、い

つもは見沼たんぼの花や木々や風の色を感じるのだが、この日は“鳥、鳥、鳥”だった。芝川では、カワセミ、ヨシゴイ。空には、オオタカ、コガモの群れ、アオサギ、カワウ。ゆっくりした探鳥会の最後で、市立病院の桜の植え込みに、キビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、初出現のコサメビタキ。やっぱり三室は、人も鳥もいい！ そんな探鳥会だった。
(楠見邦博)

10月23～24日(土～日) 長野県戸隠・飯綱高原
参加：30人 天気：23日=曇、24日=晴

カイツブリ カルガモ ヒドリガモ トビ ノスリ ハイタカ キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キクイタダキ ムギマキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 土曜日は時々薄日が差すあいにくの天気だった。一の鳥居ではキクイタダキ、イカル等が観察されたが、全体的には鳥が少なかった。台座法師池に着くと霧でほとんど視界がない。カルガモ、ヒドリガモがいる。誰かがアトリを見つけてほっとする。次の日は、秋晴れ。朝食前に宿周辺を散策し、カケスやカラ類を観察する。みどりが池の前で写真を撮って、いよいよ森林植物園。ゴジュウカラが忙しく飛び回り、ハイタカとノスリが比較的低空を舞う。ハイタカとノスリの大きさの違いが良くわかる。随神門へ行く途中、お目当てのムギマキに出会う。1羽、いや2羽？ ムギマキが見え隠れする。皆の話を聞くと、3羽のようである。ささやきの小道でマミチャジナイ。じっとして、今度は全員がゆっくり観察できた。キャンプ場ではキノコ汁に舌鼓を打ち、最後にカワガラスのおまけが付いた。
(菱沼一充)

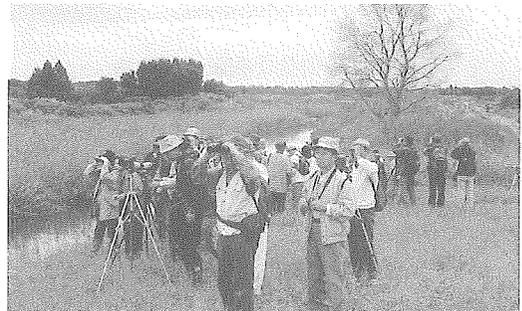
10月24日(日) 行田市 さきたま古墳公園
参加：35人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ バン キジバト カワセミ アリスイ コゲラ ショウドウツ

バメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 稲荷山古墳が修復元工事のため一部コースを変更して、丸墓山古墳に登ることを決めてスタート。風もなく、よく晴れ、気持ちの良い日。いわゆるタカ日和である。出ましたノスリ2、オオタカ、チョウゲンボウ、それに10月の鳥ジョウビタキ。今年の見初めだった。アリスイとショウドウツバメもこの探鳥会初観察。98段の階段を登り、丸墓山の頂へ。「次回もここに来よう。」と誰かが言っていた。平地の探鳥会で高いところに登れるのは、ここの他にない。これからもコースに入れていこう。
(内藤義雄)

10月24日(日) 川越市 西川越
参加：49人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ イカルチドリ タゲリ イソシギ ユリカモメ キジバト アマツバメ カワセミ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 今年の8月の大雨で入間川の流れが変わったので、カワセミは見られないかなと思っていたら、朝の挨拶の途中で公園の池に出て、まずは一安心。河原に行って小鳥やカモを見ているうちに、チョウゲンボウ、オオタカが出た。そして、見たこともない羽のパターンのタカがカラスに付きまといわれて出現。皆で図鑑を見たがわからない。写真を撮った人がいたので、後日調べたところ中米のタカとのこと。後はタゲリが22羽、遠くで舞っているのが見られた。
(佐久間博文)



10月17日、三室探鳥会

連絡帳

●関東ブロック協議会に出席

11月6日(土)と7日(日)の2日間、都内渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合活動センターで、東京支部担当の関東ブロック協議会が開催され、埼玉県支部からは、海老原美夫副支部長と橋口長和・菱沼一充両幹事が出席。全国支部代表者会議運営委員会委員選出・運営要領改定と運営要領細則制定・改正鳥獣保護法研修・フィールドマナーに関する分科会・鳥獣保護法に関する分科会等の議論や、夜の懇親の席に加わりました。

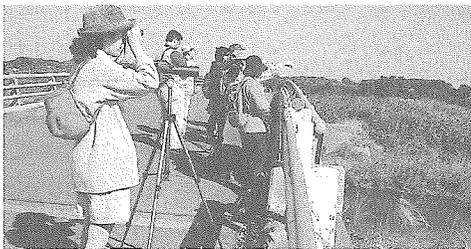


橋口長和・菱沼一充両幹事

●支部の普及活動

東村山市立回田(めぐりだ)小学校から、総合的学習の一環として依頼を受けて、佐久間博文幹事が、10月16日(土)狭山湖周辺で野鳥の観察を指導しました。

浦和市大古里(おぶさと)公民館から依頼を受けて、海老原美夫・工藤洋三・倉林宗太郎・森力・海老原教子の幹事リーダーらが、10月23日(土)三室地区の見沼田んぼで、親子探鳥会を指導しました。



大古里公民館親子探鳥会

●会員の普及活動

日高市在住の吉田時規リーダーが、石井幸男・山崎芳治両氏と共に、同市環境保全課主催、10月17日(日)小畔川周辺バードウォッチングで、指導に当たりました。

吉田リーダーは、同課主催の第1日曜日定例自然観察会でも、5月2日(日)と6月6日(日)の2回指導し、1月9日(日)も担当する予定です。

●シラコバト生息調査を始めます

埼玉県支部のシンボルバードでもあるシラコバトの最近の生息状況を知る為の調査を、来年1月から始めます。委員会の名は「シラコバト見つけ隊」。委員長:橋口長和、副委員長:高文子・玉井正晴、3人の幹事が担当し、支部会員が参加しやすい調査方法を検討中。詳しい事は後日発表します。

●12月の事務局 土曜と日曜の予定

- 4日(土) 普及部会議。
- 11日(土) 編集会議、研究部会議。
- 18日(土) 校正作業。
- 19日(日) 役員会議。
- 25日(土) 袋づめの会。

●会員数は

11月1日現在3,041人です。

活動報告

- 10月17日(日) 役員会議(司会:玉井正晴、各部の報告・関東ブロック協議会出席者と支部としての意見確認・1月~4月の行事予定・シラコバト生息調査・その他)。
- 10月23日(土) 11月号校正(海老原美夫)。
- 11月1日(月) 11月号発送(倉林宗太郎)。

編集後記

来年の特集を考えてみた。2000年1月号の第189号は、やっぱりシラコバトだな。で、2月号の190号は……、3月号は……と考えていたら、2000年最後の12月号は、なんとちょうど200号!! どうしよう、何かしなくてはいけないのかな。(山部直喜)

『しらこぼと』1999年12月号(第188号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ <http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitm/>

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用